

BEST AVAILABLE COPY

PAT-NO: JP02003030448A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2003030448 A

TITLE: METHOD FOR EVALUATING STOCK PRICE RATING,
METHOD FOR
RANKING SECURITY ANALYSTS AND METHOD FOR
INVESTING IN
SECURITY

PUBN-DATE: January 31, 2003

INVENTOR-INFORMATION:

| | |
|------------------|---------|
| NAME | COUNTRY |
| OKUMURA, TAKASHI | N/A |

ASSIGNEE-INFORMATION:

| | |
|---------------------------------|---------|
| NAME | COUNTRY |
| INTERNET RESEARCH INSTITUTE INC | N/A |

APPL-NO: JP2001220484

APPL-DATE: July 19, 2001

INT-CL (IPC): G06F017/60

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a stock price rating evaluating method and a security analyst ranking method for quantitatively clarifying the degree of the reliability for the estimation of the security analysts and further to provide a security investing method.

SOLUTION: In this security analyst ranking method, stock price rating made public by a security analyst is organized into a standard format including the date of publication, security analyst name, stock name code rating numerical number, risk class and target price, a computer database is prepared and later

is contrasted with stock market data, a probability statistics model is used to periodically evaluate the stock price rating until the next stock price rating is announced, a hitting ratio is calculated for each stock, a computer calculates points about each stock in accordance with the hitting ratio, and the security analyst is ranked by the computer on the basis of the points of the stocks to obtain security analyst evaluation results.

COPYRIGHT: (C)2003,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2003-30448
(P2003-30448A)

(43) 公開日 平成15年1月31日 (2003.1.31)

| | | | |
|---------------------------|-------|---------------|--------------------|
| (51) Int.Cl. ⁷ | 識別記号 | F I | キーワード* (参考) |
| G 0 6 F 17/60 | 2 3 4 | G 0 6 F 17/60 | 2 3 4 K 2 3 4 C |

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2001-220484(P2001-220484)

(22) 出願日 平成13年7月19日 (2001.7.19)

(71) 出願人 397014042
株式会社インターネット総合研究所
東京都港区虎ノ門5丁目12番13号 大手町
建物神谷町ビルディング8階

(72) 発明者 奥村 尚
東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村
ビル11階 株式会社インターネット総合研
究所内

(74) 代理人 100097319
弁理士 狩野 彰

(54) 【発明の名称】 株価レーティングの評価方法、証券アナリストのランキング方法及び証券投資方法

(57) 【要約】

【課題】 どの証券アナリストの予想がどの程度信頼できるかを定量的に明らかにする株価レーティングの評価方法及び証券アナリストのランキング方法を提供し、さらに、証券投資方法を提供することを目的とする。

【解決手段】 証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとの的中率を求め、当該的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得る、証券アナリストのランキング方法である。

自動車セクターの証券アナリストのランキング
評価期間：4/4Q (2001年1月1日～3月31日)

| 順位 | 名前 | 所属 | ランキング値 |
|----|-------|--------|--------|
| 1 | ○田 太郎 | x x 証券 | 5 L |
| 2 | ×山 裕美 | y y 証券 | 5 M |
| 3 | △原 和男 | z z 証券 | 4 L |
| 4 | ▽岡 洋 | u u 証券 | 4 L |
| 5 | ... | ... | ... |

【特許請求の範囲】

【請求項1】 証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、

その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとの的中率を求める株価レーティングの評価方法。

【請求項2】 請求項1に記載の株価レーティングの評価方法によって求められた的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、当該株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得る、証券アナリストのランキング方法。

【請求項3】 証券アナリストの評価結果をデジタル情報網を通じて投資家へ送信することを特徴とする請求項2に記載の証券アナリストのランキング方法。

【請求項4】 業種セクターごとに証券アナリストの評価結果の高い順に証券アナリスト名、当該証券アナリストの評価結果を列挙することを特徴とする請求項2に記載の証券アナリストのランキング方法。

【請求項5】 証券会社の証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、

その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとの的中率を求め、的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、

株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得、

証券アナリストの評価結果と、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値と、からすべての買い推奨銘柄を順位付けし、証券アナリストの評価結果が高く、かつ、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値が高い株式銘柄から順に当該株式の株価レーティング内容をコンピュータを用いて列挙する証券投資方法。

【請求項6】 証券会社の証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、

その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用

いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとの的中率を求め、的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、

株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得、

証券アナリストの評価結果と、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値と、からすべての売り推奨銘柄を順位付けし、証券アナリストの評価結果が多く、かつ、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値が低い株式銘柄から順に当該株式の株価レーティング内容をコンピュータを用いて列挙する証券投資方法。

【請求項7】 証券会社の証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、

その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとの的中率を求め、的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、

株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得、

証券アナリストの評価結果と、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値と、からすべての買い推奨銘柄を順位付けし、証券アナリストの評価結果が高く、かつ、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値が高い株式銘柄から順に当該株式の株価レーティング内容をコンピュータを用いて列挙し、

1位からn位までの株式銘柄を買い推奨銘柄群とし、当該買い推奨銘柄群の各株式銘柄の時価に基づき買い推奨銘柄群の時価をコンピュータを用いて算出し、算出開始時の当該買い推奨銘柄群の時価との比を算出し、買い推奨銘柄群の指数をコンピュータによって求めることを特徴とする証券投資方法。

【請求項8】 証券会社の証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、

その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとの中率を求め、的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、

株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得、

証券アナリストの評価結果と、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値と、からすべての売り推奨銘柄を順位付けし、証券アナリストの評価結果が高く、かつ、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値が低い株式銘柄から順に当該株式の株価レーティング内容をコンピュータを用いて列挙し、

1位からn位までの株式銘柄を売り推奨銘柄群とし、当該売り推奨銘柄群の各株式銘柄の時価に基づき売り推奨銘柄群の時価をコンピュータを用いて算出し、算出開始時の当該売り推奨銘柄群の時価との比を算出し、売り推奨銘柄群の指数をコンピュータによって求めることを特徴とする証券投資方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】本発明は、株価レーティングの評価方法、証券アナリストのランキング方法及び証券投資方法に関する。特に、コンピュータを用いたこれらの方法や情報通信網を用いたこれらの方法に適している。この明細書において、「証券アナリスト」とは、主として証券会社やシンクタンクに所属する証券アナリストを意味する。

【0002】

【従来の技術】証券アナリストは、水産・鉱業、建設、食品、繊維、パルプ・紙、化学、薬品、石油・ゴム製品、窯業、鉄鋼、非金属、金属製品、機械、電機、輸送用機器、精密機器、その他製造業、卸売業、小売業、金融機関、証券・損保、不動産、陸運、海運・空運、倉庫・通信、電力・ガス、サービスなどの専門分野あるいはセクターを担当しており、そのセクターに属する株式銘柄の株価などを予想する株価レーティングを発表している。その後、例えば2ヶ月おき、3ヶ月おきぐらいの時期に株価レーティングを訂正発表している。

【0003】また、証券アナリスト自身のランキングは新聞記者や経済専門家や機関投資家等の意見などに基づいて、経済や株式関連の雑誌あるいは新聞に年1回程度の頻度で発表されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、証券アナリストの株価レーティングは1年後の株価予想を発表するものであるが、その後、例えば2～3ヶ月おきに株価レーティングを訂正発表するものであるから、「1年後」は永久に来ないことになり、どの株価レーティングの的中率が高いか低いかがわかりにくいという問題がある。また、株価レーティングを数ヶ月後から1年後の株価とつき合わせて、当たっているとか当たっていないとかを、例えば「証券アナリストジャーナル」に発表されて

いるが、これら株価トレーティングの発表後1年間に、証券アナリストが何度も予想、見直しを変更している点を全く考慮せず、見落としているという問題がある。

【0005】さらに、従来の証券アナリストのランキングは、新聞記者や経済専門家や機関投資家等による証券アナリストの人気得票で決定される。そのため、証券会社と機関投資家等との慣れ合い得票がありえること、機関投資家等を証券アナリストがどの程度訪問して人間関係を作ったかなど勘と気分に依存した得票が多く、その結果として、特定の証券アナリストが真の成績にかかわらず、長期にわたってランキング上位に君臨するという不合理が生じ問題がある。

【0006】そこで、本発明の目的は、上記問題点を解消し、どの証券アナリストの予想がどの程度信頼できるかを定量的に明らかにする株価レーティングの評価方法及び証券アナリストのランキング方法を提供し、さらに、証券投資方法を提供することである。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的は、本願請求項1に記載の株価レーティング評価方法、すなわち、証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとの的中率を求める株価レーティングの評価方法によって、達成される。

【0008】また、上記目的は、本願請求項2に記載の証券アナリストのランキング方法、すなわち、請求項1に記載の株価レーティング評価方法によって求められた的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、当該株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得る、証券アナリストのランキング方法によっても、達成される。

【0009】また、上記目的は、本願請求項5に記載の証券投資方法、すなわち、証券会社の証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとの的中率を求め、的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得、証券アナリストの

評価結果と、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値と、からすべての買い推奨銘柄を順位付けし、証券アナリストの評価結果が高く、かつ、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値が高い株式銘柄から順に当該株式の株価レーティング内容をコンピュータを用いて列挙する証券投資方法によっても、達成される。

【0010】上記目的は、本願請求項6に記載の証券投資方法、すなわち、証券会社の証券アナリストが発表する証券アナリストレーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の証券アナリストレーティングが発表されるまで定期的に、当該証券アナリストレーティングを評価し、株式銘柄ごとに的中率を求め、的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得、証券アナリストの評価結果と、当該証券アナリストが発表した証券アナリストレーティングにおけるレーティング数値と、からすべての売り推奨銘柄を順位付けし、証券アナリストの評価結果が高く、かつ、当該証券アナリストが発表した証券アナリストレーティングにおけるレーティング数値が高い株式銘柄から順に当該株式の証券アナリストレーティング内容をコンピュータを用いて列挙する証券投資方法によっても、達成される。

【0011】さらに、上記目的は、本願請求項7に記載の証券投資方法、すなわち、証券会社の証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとに的中率を求め、的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得、証券アナリストの評価結果と、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値と、からすべての売り推奨銘柄を順位付けし、証券アナリストの評価結果が多く、かつ、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値が低い株式銘柄から順に当該株式の株価レーティング内容をコンピュータを用いて列挙する証券投資方法によっても、達成される。

【0012】さらにまた、上記目的は、本願請求項8に

記載の証券投資方法、すなわち、証券会社の証券アナリストが発表する株価レーティングを、発表日、証券アナリスト名、株式銘柄コードレーティング数値、リスク等級、ターゲットプライスを含む標準フォーマットに編成し、コンピュータ・データベースを作成し、その後、株式市況データと対比し、確率統計モデルを用いて、次回の株価レーティングが発表されるまで定期的に、当該株価レーティングを評価し、株式銘柄ごとに的中率を求め、的中率に応じて、各株式銘柄についてポイントをコンピュータによって算出し、株式銘柄についてのポイントに基づいて証券アナリストをコンピュータによってランキングし、証券アナリストの評価結果を得、証券アナリストの評価結果と、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値と、からすべての売り推奨銘柄を順位付けし、証券アナリストの評価結果が高く、かつ、当該証券アナリストが発表した株価レーティングにおけるレーティング数値が低い株式銘柄から順に当該株式の株価レーティング内容をコンピュータを用いて列挙し、1位からn位までの株式銘柄を売り推奨銘柄群とし、当該売り推奨銘柄群の各株式銘柄の時価に基づき売り推奨銘柄群の時価をコンピュータを用いて算出し、算出開始時の当該売り推奨銘柄群の時価との比を算出し、売り推奨銘柄群の指数をコンピュータによって求めることを特徴とする証券投資方法によっても、達成される。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態について、詳細に説明する。

【0014】証券アナリストは株価レーティングを発表するが、株価レーティングの形式はさまざまであり、図1、図2に示すような項目が含まれている。各証券会社の証券アナリストは自社の基準に基づいたフォーマットで株価レーティングを作成する。これら種々のフォーマットで作成された株価レーティングを共通株価レーティングフォーマット（あるいは共通証券アナリストレーティングフォーマット）にコンピュータを用いて変換する。通常、レーティング数値は、SB（Strong Buy）、B（Buy）、N（Neutral）、S（Sell）、SS（Strong Sell）の5段階であるが、例えば、レーティング数値が図2に示すように、B（買い推奨）、N（中立）、S（売り推奨）の3段階である場合には、ターゲットプライスと発表前日の株価終値との乖離に基づいて、5段階のレーティング数値に変換される。

【0015】初めに、株価レーティングを各株式銘柄について、ターゲットプライス、リスク等級、レーティング数値の3要素に分離し、それぞれ採点する。例えば、x日間及びy日間の株価の動きから3要素を採点する。採点は、それぞれの要素の採点基準によって、定量モデルを用いて行われる。採点結果をTP、R、RAとす

る。リスク等級とレーティング数値は株式市場との相対として位置付けられるので、例えば、日経平均やTOPIXとの相対で採点される。ただし、 x 、 y は内部定数である。

【0016】次に、株価レーティングが発表されたことによって、株式市場がどのような影響を受けたかを定量的に分析する。例えば、発表前日比の発表日株価終値（株価マーケットインパクト、SI）、発表日の前日比出来高（出来高瞬発力、SV）、出来高が発表後 n 営業日間継続して過去 m 営業日の出来高平均をどの程度上回ったか（出来高持続力、SC）を算出する。これらの算出ポイントは偏差値で示される。ただし、 m 、 n は内部定数である。

【0017】最後に、株価レーティングの株式銘柄ごとに、TP、R、RA、SI、SV、SCの値（偏差値）を合計し、ウェイト、 w を乗じた得点が株価レーティングのポイントとなる。ただし、 w は内部定数である。

【0018】株価レーティングが発表されてから x 日後、 y 日後に、ポイントを算出し、このポイントによって、ある株価レーティングが他の株価レーティングよりも中率が優れているか劣っているかを数値化して比較することができる。

【0019】なお、株価レーティングは、1から1.5年後の株価を予想するものであるが、2ヶ月程度の頻度で差し替えられる。よって、ポイントの算出期間である速報値 x 営業日間、確定値 y 営業日間は2ヶ月よりも十分に小さい期間とすべきである。

【0020】株価レーティングのポイントから証券アナリストのランキングを定量的かつ客観的に行うことができる。図3は、証券アナリストのランキング結果を示す。（ポイント／株式銘柄数）の値を所定の範囲内に属するものに上位から5L、5M、4L、4M、3L、3M、2L、2M、1L、1Mのランキング値を与えている。本実施形態とは異なり、ランキング値は100満点とし0から100までの整数によって表現しても良いし、または、-100から100までの整数としても良いし、さらには、0から1までの小数点以下2桁の小数で表現しても良い。株式銘柄の属する分野、セクターごとに証券アナリストのランキングを一覧表示しても良いし、全セクターについて証券アナリストの一覧ランキングを示しても良い。このランキング結果は、四半期ごと、年4回ごとに更新し、順位を入れ替えても良い。

【0021】さらに、有益な実施例として、買い推奨銘柄のランキングや売り推奨銘柄のランキングがある。証券アナリストのランキング値と、その証券アナリストが株価レーティングにおいて発表した株式銘柄のレーティ

ング数値と、から買い推奨銘柄のポイントを算出する。図4は買い推奨銘柄のランキング結果を示す図である。買い推奨銘柄をそのポイントの高い順に列挙したものである。同様に売り推奨銘柄のポイントを算出し、ポイントの高い順に売り推奨銘柄を列挙して、売り推奨銘柄のランキング結果を得ることができる。買い推奨銘柄の上位5位までの株式をピックアップするとポートフォリオができあがり、例えば投資信託として株式売買を行うと、高い運用成績をあげることができる。

10 【0022】買い推奨銘柄の上位5位までの株式銘柄をピックアップした買い推奨銘柄群について、時価から毎日の指数を算出することができる。図5は買い推奨銘柄群を買い持ちしたときの価格指数を示す図である。買い推奨銘柄群を1つのバケットとして扱うことによって、高いパフォーマンス（運用成績）を狙う投資信託等の日ごとの運用実績が明確に把握することができる。

【0023】これらの算出や一覧印刷は、多量のデータに基づき短期間で行わなければならないため、コンピュータを用いて行うことが望ましい。

20 【0024】さらに、ランキングの妥当性や運用成績を考慮して、 x 、 y 、 w 等の内部定数は定期的に見直し、変更するのが良い。

【0025】

【発明の効果】本発明によれば、短期間のうちに、各証券アナリストの発表した株価レーティングの内容を、時価、出来高の動向から定量的に客観的に採点しポイントを算出することができ、株価レーティングをより定量的に評価することができ、株価レーティングの評価結果から証券アナリストの予想的中率を数値化することが可能となった。

30 【0026】さらに、本発明によれば、証券アナリストのランキングと、その株価レーティングの発表内容とから、買い推奨銘柄や売り推奨銘柄に数値評価を与えることができるようになり、すべての証券アナリストについて、買い推奨銘柄を列挙することができ、高い株式売買運用実績をあげる可能性が飛躍的に向上した。

【図面の簡単な説明】

【図1】株価レーティングの1つの形式を示す図である。

40 【図2】株価レーティングの他の形式を示す図である。

【図3】証券アナリストのランキング結果を示す。

【図4】買い推奨銘柄のランキング結果を示す図である。

【図5】買い推奨銘柄群を買い持ちしたときの価格指数を示す図である。

【図1】

証券会社名：XX証券
証券アナリスト名：○田 太郎
発表日付：20010402

株式銘柄名：○○電機
証券コード：65xx
レーティング数値：1 (1:SB, 2:B, 3:N, 4:S, 5:SS)
クラス等級：H (High, Medium, Low)
ターゲットプライス：580
本日株価：360

株式銘柄名：△△電気
証券コード：65yy
レーティング数値：2 (1:SB, 2:B, 3:N, 4:S, 5:SS)
クラス等級：L (High, Medium, Low)
ターゲットプライス：420
本日株価：400

株式銘柄名：▽▽製作所
証券コード：65zz
レーティング数値：4 (1:SB, 2:B, 3:N, 4:S, 5:SS)
クラス等級：M (High, Medium, Low)
ターゲットプライス：260
本日株価：310

【図2】

証券会社名：YY証券
証券アナリスト名：×山 裕美
発表日付：20010409

株式銘柄名：○○電機
証券コード：65xx
レーティング数値：1 (1:B, 2:N, 3:S)
クラス等級：Hi (Hi, Mid, Lo, S, V)
ターゲットプライス：600
本日株価：370

株式銘柄名：△△電気
証券コード：65yy
レーティング数値：2 (1:B, 2:N, 3:S)
クラス等級：Mid (Hi, Mid, Lo, S, V)
ターゲットプライス：410
本日株価：405

株式銘柄名：▽▽製作所
証券コード：65zz
レーティング数値：2 (1:B, 2:N, 3:S)
クラス等級：Lo (Hi, Mid, Lo, S, V)
ターゲットプライス：290
本日株価：310

【図3】

自動車セクターの証券アナリストのランキング
評価期間：4/4Q (2001年1月1日～3月31日)

| 順位 | 名前 | 所属 | ランキング値 |
|----|-------|------|--------|
| 1 | ○田 太郎 | xx証券 | 5L |
| 2 | ×山 裕美 | yy証券 | 5M |
| 3 | △原 和男 | zz証券 | 4L |
| 4 | ▽岡 洋 | uu証券 | 4L |
| 5 | ... | ... | ... |

【図4】

買い推奨銘柄のランキング結果

2001年4月15日

| 順位 | 証券コード | 株式銘柄名 | アナリスト |
|----------|----------|-------|-----------|
| 1 | 65xx | ○○電機 | ○田 太郎 |
| 発表日付 | レーティング数値 | リスク等級 | ターゲットプライス |
| 20010402 | 1 | H | 580 |
| 本日株価 | 期待リターン | | |
| 370 | 65.7% | | |

【図5】

【図5】

買い推奨銘柄群A

| 年月日 | 指数 |
|----------|-----|
| 20010104 | 100 |
| 20010105 | 99 |
| 20010106 | 105 |
| 20010108 | 107 |
| 20010109 | 106 |

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☒ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☒ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.